

カツオノカンムリ



帆を持つカツオノカンムリ(白浜町臨海で)

久保田 信

25

「♪こんぴら船々 追風(おいて)に帆かけて シュラシユシュシュ」という民謡がぴったりのクラゲがい

る。ヒドロクラゲの一種カツオノカンムリである。「三角の帆」に風を受け、黒潮に乗ってわが国の沿岸にやって来る。通常は沖合にいるが、風向きや潮流によって海岸に打ち寄せられる。前回紹介したカツオノエボシが漂着した日に、一緒に流れ着いていた。同じような場所でも同じような生活を送っているからだろ

う。体を海面上に浮かせる気泡

体は、楕円(だえん)形の透明な水平板と、それより立ち上がるこれまた透明な三角板からなる。この三角板が帆になり、風を受けて海面上を帆走する。水平板は10センチに達するが、今回漂着した

ものは3センチくらいで複数見られた。カツオノカンムリもカツオノエボシ同様、左右両型が見られる。

気泡体の下面に、餌を捕らえる個虫、生殖用個虫、攻撃防御用個虫などが林立している。これらはすべて海の青色をしている。画像では打ち上げられて収縮しているのによく見えないが、目の覚める青い部分がそうである。カツオノエボシと違って毒性はない。餌は主に魚卵やオキアミの卵を食べているらしい。

生殖部からは小さな1ミリのクラゲを無数といっていほど遊離させて、有性生殖する。このクラゲには共生藻がすんでおり、光合成をして自力で栄養を賄う。触手も2本あるいは4本あり、獲物を捕らえると考えられている。

生態についてはカツオノエボシ同様に飼育例がまったくないので、詳しいことは分かっていない。若い時代に、どこでどう過ごしているかも不明である。

(京都大学准教授)

